

令和7年12月26日

扱い（解禁）

ラジオ・テレビ・ネット

：令和8年1月30日（金）17:00～

新聞：令和8年1月31日（土）付 朝刊

天理大学附属天理参考館
奈良市教育委員会文化財課

報道発表

伝富雄丸山古墳出土三角縁神獣鏡に関する報道発表について

この度、天理参考館が所蔵する伝富雄丸山古墳出土三角縁神獣鏡3面について、奈良市教育委員会が実施したデジタルマイクロスコープによる分析で新たに判明したことを報道関係者に発表いたします。報道解禁日は報道発表後の指定解禁日時といたしますので、ご了解願います。

1. 報道発表の概要

日 時：令和8年1月30日（金） 10:00～

場 所：天理大学附属天理参考館 研修室（地下1階）

内 容：伝富雄丸山古墳出土三角縁神獣鏡の新たな所見について

連絡先：天理参考館 藤原郁代（0743-63-8414）

奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター 村瀬陸（0742-33-1821）

2. 発表内容の概要

（1）伝富雄丸山古墳出土三角縁神獣鏡の概要

天理参考館では「伝富雄丸山古墳」の三角縁神獣鏡3面を所蔵している。かつて京都府のコレクターが所蔵していたもので、同じ人が、現在京都国立博物館が所蔵する重要文化財の富雄丸山古墳出土品も所蔵していた。こちらは1972年に奈良県教育委員会が行った発掘調査において出土した破片と接合したため、富雄丸山古墳出土品であることが確実となったが、天理参考館の鏡は由来が不詳であり、出土地の確定が出来ないまま現在に至っている。

（2）デジタルマイクロスコープによる分析結果

奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センターに所属する村瀬は、令和6・7年度に島根大学山陰研究センター若手研究者支援事業に伴う客員研究員、および日本学術振興会科学研究費による奨励研究の採択を得て、デジタルマイクロスコープを用いた銅鏡生産・利用に関する研究を進めている。これに伴う調査を実施し、伝富雄丸山古墳出土三

角縁神獸鏡について、以下の新たな所見を得た。

- ・ 3面とも研磨擦痕等に赤色顔料が伴うこと
- ・ 3面ともデンドライト（金属組織構造）が露呈する研磨状態が酷似すること

研磨擦痕等に赤色顔料が伴うことは、奈良市埋蔵文化財調査センター令和7年度秋季特別展「かがみ—含水居蔵鏡と銅鏡史—」のなかで発表したように、富雄丸山古墳出土斜縁神獸鏡でも確認したもので、研磨剤に伴う痕跡である可能性が高いものである。

また、3面ともに鏡面ではデンドライトが露呈していることを新たに確認した。通常の銅鏡研磨ではデンドライトが一部に露呈することはあっても、全面に認められることは珍しく、表層を削り取るほどの研磨が行われたことがわかる。3面は、型式や製作段階が異なるものと考えられていることから、研磨状態が共通することは、製作時ではなく副葬時に近い所作である可能性もある。

以上の新たな所見は、従来3面が一括資料である可能性が指摘されてきたものを裏付けるものである。

（3） 今後の展望

今回の調査研究により、伝富雄丸山古墳出土三角縁神獸鏡3面が、一括資料である可能性が高まった。さらに、研磨剤の可能性が指摘されている研磨擦痕等の赤色顔料を新たに確認することができた。

今後、研磨方法の比較、赤色顔料をはじめとした銅鏡の理化学的分析を行うことにより、伝富雄丸山古墳出土鏡とされた3面の実態へ、さらに迫ることができる可能性があると考えられる。これについて、引き続き共同研究として進めることで実証的な研究を継続する。

（4） 天理参考館による伝富雄丸山古墳出土三角縁神獸鏡の調査報告

天理参考館が最近行った、伝富雄丸山古墳出土三角縁神獸鏡に関する調査・研究の結果を報告する。

3. 報道解禁日時

ラジオ・テレビ・ネット：令和8年1月30日（金）17:00～

新聞：令和8年1月31日（土）付 朝刊